

研究課題名	糖尿病を合併したC型肝炎および NAFLD (Non-alcoholic fatty liver disease: 非アルコール性脂肪性肝疾患) に対する耐糖能是正が肝線維化に及ぼす影響
研究責任者名	広島大学大学院医歯薬保健学研究科 消化器・代謝内科学 職名 教授 氏名 茶山 一彰
研究期間	2017年5月25日(倫理委員会承認後) ~2019年12月
対象者	2008年4月1日から2017年5月25日(承認日)までに、広島大学病院消化器・代謝内科に受診された慢性肝疾患患者さん {C型肝炎、非アルコール性脂肪性肝障害 (NAFLD)} のうち、以前当院の別の研究である、疫-726 (題名: 肝疾患の研究のためのデータベース登録) に同意頂いている患者さんを対象とします。
意義・目的	糖尿病は慢性肝疾患における肝発癌危険因子であり、また肝硬変への肝病変進展因子であることが明らかにされています。このように慢性肝疾患治療において糖尿病あるいは耐糖能異常のコントロールが重要な役割を果たすことが認識されつつあります。しかしながら、糖尿病を合併した慢性肝疾患患者に対する糖尿病治療が、慢性肝疾患の予後、特に肝線維化を改善するのか否かについては明らかにされていません。その点を明らかにすることが本研究の主な目的です。
方法	<p>本研究は、主に診療録 (カルテ) 情報を転記して行います。カルテから転記する内容は、年齢、性別、身長、体重、腹囲、臀部周囲、服薬歴、既往歴、合併症、血液検査 (総蛋白、アルブミン、AST、ALT、γ-GTP、ALP、LDH、総ビリルビン、ChE、MCV、血小板、IV型コラーゲン7s、ヒアルロン酸、M2BPGi*、HbA1c、空腹時血糖値、空腹時インスリン値、75g経口ブドウ糖負荷試験 (75gOGTT)、HOMA-IR、グリコアルブミン、LDLコレステロール、トリグリセライド、HDLコレステロール、遊離脂肪酸、BUN、クレアチニン、尿酸、P-amylase、血清鉄、フェリチン、トランスフェリン飽和度、AFP、高感度CRP (hs-CRP))、肝生検の結果、腹部超音波検査の所見です。</p> <p>(個人が特定出来る情報は転記しません)</p> <p>*ただし、M2BPGiの測定に関しては、保存血清を用いて行います; 保存血清は当院で連結可能匿名化されます。連結可能匿名化された血清は一旦川崎医科大学附属病院でまとめられ、M2BPGi測定のため国立国際医療研究センター 肝炎・免疫研究センターへ搬送し一括測定するか、もしくは川崎医科大学附属病院で測定を行います。M2BPGi測定にかかる費用は川崎医科大学 肝胆膵内科学の研究経費でまかなわれます。検査は通常臨床診療の範囲内であり、新たな費用の発生はありません。</p>
共同研究機関	<p>本研究は川崎医科大学 肝胆膵内科学を中心とした多施設共同研究です。以下の機関と共同で研究します。川崎医科大学 肝胆膵内科学に情報を集め解析します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川崎医科大学 肝胆膵内科学

- 鳥取大学医学部 機能病態内科学
- 島根大学医学部附属病院 肝臓内科
- 下関厚生病院 消化器内科
- 愛媛大学大学院消化器・内分泌・代謝内科学
- JA 広島総合病院 消化器内科

試料・情報の管理責任者

川崎医科大学 教授 日野啓輔

個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5191

広島大学病院 消化器・代謝内科 助教 平松 憲

研究機関：広島大学